

16 日間、ポーランドとイスラエルを周って来ました。8 日間、ポーランドから博物館だけで 5 か所・歴史的由来の場所を 10 か所。1 日平均 13,000 歩。4 kg 落ちました。ダイエットにもいいんじゃないかと。

行ってつくづく思ったのは、日本を出て・外国に行って・自分の目で見ると確かさ。今日、若い方々もおられるので是非お勧めしたい。日本を出て、世界を見て来て欲しい。心から推奨したいと思います。だけど、単に予備知識なしで行っても、表面的に「きれかったなあ」で終わってしまうので、是非、歴史と聖書を持って行く。そうしたら、今世界がどういう流れの中にあるのかがよく見えてきます。なので今日は、歴史と聖書預言の 2 本立てで、ユダヤ民族の事を考えてみます。

今日のサブテーマは「ユダヤ人はなぜ迫害されたのか」。

世界中を見渡すと、どこの国でも少数派は多数派にいじめられる。色んな国で、多数派は少数派をいじめます。迫害されているのは、何もユダヤ人だけじゃない。だけど、ユダヤ人ほど延々と、すなわち 1000 年単位の歴史の中で、根深く・しつこく迫害され・憎まれ・呪われ・そして絶滅一歩手前まで行った事が 1 度や 2 度ではない民族はありません。

なぜユダヤ人はこんなに憎まれるのだろうか？ 色んな方が色んな事を言っているのですが、私はどれを聞いても納得できません。後付けの理屈にしか思えないと感じるのです。

国粹主義者・ファシストはユダヤ人を「共産主義!」と言いました。というのは、マルクスはユダヤ人。世界で最初に共産革命を成功させたソ連のボルシェビキの中にはユダヤ人がたくさんいました。

だから国粹主義者にしたらユダヤ人は共産主義。

ところが、共産主義者にとっては、ユダヤ人はブルジョアの頂点。労働者の収益を吸い取って、巨万の富を持っているロスチャイルドをはじめとする大金持ち・資本家。

ユダヤ人は、外国に住んでいる時は、そこに何千年住んでいたとしても、疑わしい偽(ニセ)市民としてしか認めてもらえません。迫害の度に、それがあぶり出されて来る。

ユダヤ人国家に住んでいるユダヤ人は、パレスチナ人を迫害する人種差別主義者と言われる。

ユダヤ教に熱心なユダヤ人は宗教を理由に迫害され、世俗的な(*宗教的でない)ユダヤ人は、世俗で成功しているという事で陰謀だと迫害される。

国がない時には、国がないという理由で迫害され、国を持ったなら持ったで「何と差別的か」と迫害される。反ユダヤ主義をずっと見ていったら支離滅裂です。

ヒトラーはなぜユダヤ人を迫害したのか？ 彼は「アーリア民族優越説」に立っていました。

「人類の中で一番優秀なのはアーリア民族だ。その優秀さを保つために、純潔を維持しなければならない。だがアーリア人の国ドイツの中にユダヤ人がたくさんいる。ユダヤ人は劣等民族だから、アーリア人の血を汚さないために、ユダヤ人を抹殺しなければならない!」

そう言いながら、同時に同じ口で、ある人たちは言うんですね。「なぜユダヤ人は迫害されたか？ キリス

ト殺しだから。イエス・キリストを十字架にかけて殺したから。キリスト殺しの民は呪われて然るべきだ!」これも後付けです。イエス・キリストは確かに十字架にかかって死なれましたが、十字架の前に、ユダヤ人からの裁判と異邦人からの裁判の2種類受けています。

ユダヤ人の裁判で「彼は自分を神と言った!」という事で有罪になりました。異邦人の方でも裁判をやっていて、異邦人裁判官のピラトは「あなた方の好きにしたらいい」と言って、最終的に彼が死刑判決を決断するのです。

「十字架につけられたイエス・キリスト」とよく言うけど、直接十字架につけたのはローマ人。イエス自身はユダヤ人ですよ。十字架につけた事が世界中から呪われるべき理由となるなら、ローマ人の末裔は呪われて迫害されるべきです。されてない。全部後付け。

ユダヤ人の迫害理由は、色んな人が色んな事を言うけど、どれも腑に落ちません。「なるほどな」と思った事は1回もない。ただ1つの説明を除いて。それは、デーモニッシュ (Demonish) というか、ユダヤ人に対する悪魔的な憎悪。

その理由をハッキリ語っている唯一の書物は聖書です。だから、歴史を見ているだけではダメなんです。ユダヤ人迫害の問題は、ヒューマニズム・人道主義・教育の問題とかで何とか出来るような甘っちょろいものではない。「もっと大きな、人間を越えた力から来ている」と聖書は語ります。

そこでまず、「そもそもユダヤ人とは何なのか?」という事からおさらいしたいと思います。ユダヤ人にも先祖がいました。最初のユダヤ人第1号はアブラハムという人です。神はアブラハムに「全人類の中からあなたを選んだ。あなたに使命がある」と言って契約を結びました。それが『アブラハム契約』。これは聖書全体を解いていくために、どうしても避けて通る事ができない鍵です。

アブラハム契約とは、**創世記 12:1-3 主はアブラム** (後のアブラハム) **に言われた。**
「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

アブラハム・息子のイサク・その息子のヤコブ、ヤコブから出て来る12部族がユダヤ人です。アブラハム契約には、アブラハムに対して2つの命令があります。1つ目の命令を彼が実行したら、神は3つの祝福を与え、2つ目の命令を実行したら、神はそれにも3つの祝福を与えると言うのです。

1つ目の命令；**あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。**

アブラハムがこの命令に従ったならば、彼は3つの祝福を得ます。

- ①**わたしはあなたを大いなる国民とする**：あなたの子孫から偉大な国民が誕生する。
- ②**あなたを祝福する**：わたしが示す約束の地に行くなら、あなたを物質的・精神的・霊的にトータルで祝福された人生に入れる。
- ③**あなたの名を大いなるものとする**：アブラハムという名前は全世界の人から尊敬されるタイトルになる。今は無名のおじいさんかもしれないが、やがて全人類がアブラハムの名を尊敬して語るようになる。

2 つ目の命令 ; あなたは祝福となりなさい。

祝福となるというのは祭司の仕事です。日本にも神主がいるでしょ。祭司と神主を一緒にしたら怒られるかも分かりませんが、イスラエルでは祭司がいて、神様を人々に伝えて祝福する。

「あなたは全世界の祭司として立てられた人だ。祭司になりなさい。」

そうするならば、3 節の 3 つの祝福 ; ①わたしは、あなたを祝福する者を祝福し ②あなたを呪う者をのろう。 ③地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

なぜ神はユダヤ民族を・アブラハムを選んだのか？ アブラハム以外の全ての人類が嫌いだからじゃありません。アブラハムを通して、全人類に神の祝福を届けるために、神はユダヤ民族を・彼を選んだのです。

3 節をよく覚えて下さい。「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。」

これを頭に入れて、ユダヤ人の歴史を簡単に話したいと思います。

アブラハムの時代から解き起こすと、とても時間が足りないのでヨーロッパに限定します。

1290 年、イギリスがグレートブリテン島にいたユダヤ人を皆追放しました。追放されたユダヤ人はフランスに行って、そこで活躍するようになります。すると、フランスは非常に国力が増大し、大きく強く影響力のある国になっていきました。それは、ユダヤ人の活躍を許したから。

しかし、よそから来たユダヤ人が、元々いる国民の上に立ったり、優遇されたりするのは面白くない。

そこでフランスは 1394 年に「ユダヤ人は一人残らずフランスから出て行け！」

追放された全ユダヤ人はヒスパニア地方・イベリア半島（スペイン・ポルトガル）に入って行きました。ユダヤ人がイベリア半島に入ると、それまで後進国だったスペイン・ポルトガルがものすごく発展します。地球一周できるような技術を、世界に先駆けて持つようになったのです。

彼らは地球の裏側の日本までやって来ましたよ。日本の鎖国時代、最初に来日したのはどこですか？

ポルトガルでしょ。種子島。1543 年(15 いご・43 よさんふえる)種子島鉄砲。覚えてない？ それから 6 年後の 1549 年(15 いご・49 よくくる)フランシスコ・ザビエル。スペインがやって来た。

戦国時代ですよ。信長の前の時代に、地球一周して日本まで来る事ができるスペイン・ポルトガル。

なぜ彼らの科学技術がそんなに発展したのか？ ヨーロッパのどこの国よりも、ユダヤ人たちの学芸に自由を与えたからです。それで、太平洋西回り・東回りの両方で一周回って世界制覇。今南米はブラジルだけがポルトガル語で、他の中南米は全部スペイン語。世界中に大きな影響を与えました。

因みに、フランスからユダヤ人がいなくなると、フランスはみるみるうちに衰退して行きました。

ユダヤ人がスペイン・ポルトガルで優遇され祝福されている時、イベリア地方は祝福を受けたのです。

ところが、スペインが 1492 年と 1497 年にユダヤ人を追放しました。

ユダヤ人はオランダに入ります。日本の戦国時代にはスペイン・ポルトガルですが、江戸時代には蘭学。長崎出島。その時の世界最先端はオランダです。あんなにちっこい国が、何で世界最先端になるのか？ ユダヤ人優遇ですよ。

いずれにしろ、ヨーロッパの西側で追放されて追放されて、彼らは最終的にドイツに行きました。

ドイツには元々たくさんのユダヤ人がいましたが、もっとたくさん入って来た。

だけどドイツでは14世紀-16世紀に、ユダヤ人が断続的に追放されます。オーストリアも同じです。

追放されたユダヤ人は西から中部、中部から東に向かって、自分たちの安全確保のために逃げて行きました。最終的に、ヨーロッパ中のユダヤ人が集まった国、それがポーランドです。

なぜポーランドなのか、スライドを見ながら説明します。

[*画像の取り込みが不鮮明なので、動画を見て下さい。16分55秒頃~]

①クラクフ；今のポーランドの首都はワルシャワですが、ポーランドが王国として成立した11世紀、首都はクラクフ。ワルシャワは近代に入って出て来るのです。クラクフには歴代のポーランド王のお墓が全部あって、ポーランド黄金時代の中心地。京都みたいな町。

②城壁の監視塔；クラクフに行くとまず城壁が見えてきますが、その所に丸いムーミンの家みたいなものがあります。これは、360度どこでも見渡す事ができる監視塔。

③クラクフの門①；クラクフは歴史的な町で、この門を通らないと中に入れません。この門・壁・城壁はめっちゃくちゃ堅固。④クラクフの門②；これは門の1つです。私たちはここをくぐって入りました。

⑤門の内部；厚みだけでもすごいです。数メートルある。

⑥クラクフの町の模型；11世紀にポーランド王国が成立しますが、13世紀にとんでもない事件が起こりました。モンゴル帝国の軍隊が侵攻してきたのです。13世紀のモンゴルは非常に強い。

日本もモンゴル（元）の攻撃を受けましたね。元寇。神風でやっつけたとか言うのですが台風です。モンゴルは騎馬民族。騎馬民族は海軍が下手くそです。海で戦いましたね。日本海、ありがたい。だけど、極東の日本海を越えてやって来るくらいに、モンゴルはものすごい力を持っていました。

向かう先が西側だと、海がなくて全部が陸。あつという間に、モンゴル帝国はロシアのモスクワ公国に突っ込んで行き、あの恐（おそ）ロシアを滅ぼして、250年間ゼロにしたのです。ロシアと戦争して、ロシアを完全に消滅させた唯一の国モンゴル。「北方領土交渉も朝青龍にして欲しいわ」みたいな。ロシアは蹴散らされ、250年間モンゴルの手下になります。

モンゴルはロシアだけでは我慢できない。もっと欲しい。それで、ポーランドまで攻めて来ました。ポーランドは何とかくい止めますが、モンゴルはしつこくて、波状攻撃で何年か毎に大軍を送り、ポーランドの中をめちゃくちゃに荒らしまくる。

その結果、ポーランドには王様と農民はいるけど、いわゆる商人・生産者・職人・市場や経済システムを動かせるような人がいなくなった。国内ががらんどうのようになってしまった訳ですね。この状態では危ない。それでポーランドの王は、短期間で国を再建するために、ドイツの技術を持っている人たちだけを移民として送り込んでもらおうとします。

ドイツは先進国でポーランドは後進国。自分の国で十分やっていけるのに、わざわざ遅れている所にどんな技術者・経済人が行ってくれるか？行ってくれる人たちがいた。それがドイツ系のユダヤ人です。

ポーランドの王にカジミェシュという王がいて、妻（后）の名前がエステル。非常な美人。どこかで聞いたような話。その事もあって、この王はユダヤ人優遇策。

ユダヤ人は「流浪の民だ」「ここに根差してもらったら困る」で、どこに行っても土地を持ってません。金融業はやらしてもらえます。でも土地はダメ。

ポーランドは違う。ユダヤ人、土地持っても OK! 貴族や教会の土地ですらも「それを担保にしてお金を貸してもいいし、返せない場合は持ってもいいよ。」ヨーロッパのどの国も許可しなかった特権を、ポーランドはこれでもかと与えていきました。それで、ドイツのユダヤ人は皆ポーランドにやって来ます。

⑦教会；その結果、彼らが建てた町は全部ドイツ建築物。僕はウィーンにも 1 週間ほど行った事がありますが、これがウィーンの街並みにそっくり。

これは教会で、1 番上の所に、1 時間毎にラツパ手が出て来て、ポーランド第 2 国歌を演奏します。

それは、モンゴルが来た時、ラツパ手が喉を弓矢で射貫かれて倒れたにも拘らず、敵が来た事を伝えるために吹き続けたという伝説が残っているから。それほどにモンゴルは恐ろしく、国内がグジャグジャ、空白になったのでユダヤ人たちを招き入れました。ドイツ系ユダヤ人が建てる建物はドイツ系です。

⑧ドイツ系の建物 3 枚 [スライド終了]

ドイツ系ユダヤ人はポーランドで大活躍します。新しい町々を建てていき、金融でも商業でも、自由自在に活躍するようになりました。すると、ポーランドの国力がメキメキと強くなり、17 世紀頃は完全に黄金時代。戦争して、周りに領土がどんどん増えて行く。最終的にリトアニアと同盟を結び、非常に大きなポーランドになって、最大の時は今の 3 倍以上。

現在のポーランド+ベラルーシ+ウクライナ+ロシアの一部（モスクワが目と鼻の先。モスクワの近所までポーランド）+エストニア+ラトビア+リトアニア+スロバキア。

最北はバルト海から黒海に至るまで全部ポーランド。この時代、ヨーロッパ最大の国。

最大の国ポーランドはその時、ヨーロッパで最も多いユダヤ人を抱え込んでいたのです。ユダヤ人を優遇したポーランドは、ポーランド史上空前の黄金時代を迎えました。

ところが、この優遇していた王には後継ぎがいなかった。また、ユダヤ人優遇で、例えばユダヤ人相手に訴訟問題が起こっても、王が承認しない限り裁判を起こす事ができない。それで、ユダヤ人に対する反発がどんどん出てきます。

ある時、後継ぎ問題でゴタゴタと内輪もめ・仲間割れして、最終的に王がいなくなりました。

でも、王国やから「次の王様、誰にする？ 選挙で決めよう!」

選挙で知事が市長になったり、市長が知事になったり、そんなんじゃない。大阪人しか分からない。

貴族が集まって、次の王を貴族同士、選挙で決めました。つまり、選挙で選ばれた王は、選んでくれた人たちに頭が上がらないですよ。だから、王国だけど中央集権制じゃない。弱いんです。

王様が「こうだ」と言っても守らない貴族。末端の地方に行ったら、国の中にもう 1 個国があるみたい。

そのゴタゴタしているのを隣で見っていたのがドイツとロシア。ドイツもロシアもポーランドに自分の領土を一部取られていて、いつか取り返したいと思っている。それだけではなく、もっと取ってやりたいと思っている。

あんまり細かい事言うと…プロシアはドイツ語を話します。ドイツ語を話す所はドイツと思って下さい。ドイツ語圏の中に、プロシアという小さな国がありました。プロシアは小さいけど戦争がとて強い。フリードリッヒ大王が出た国ですよ。ドイツ語を話す他の国々 300 くらいを、片端から統一して行きます。

オーストリアもドイツ語ですが、最終的には、オーストリアを除く、ドイツ語を話す国々を統一して帝国を造ります。それがドイツ帝国。だから、プロシアはドイツ帝国だと思って下さい。

オーストリアは、なぜプロシアの中に入らなかったのか？ オーストリアはプライドの国なんです。ハプスブルグ家。ベルサイユのばら。マリー・アントワネットのお母ちゃん。分からない方は池田理代子の少女漫画を読んで下さい。『ベルサイユのばら』。勉強になるで。

「新参者が、戦争が強いというだけで、お山の大将になってるかもしれないけど、私たちはハプスブルグ家なのよっ！」プライドが許さない。2つに分かれているけど、これは同じドイツ語を話すドイツです。

この時、ロシアはモンゴルから独立している。自信つけている。モンゴルの下になっている時に、その戦争のやり方・戦い方をマスターしました。騎馬民族。そして、ポーランドに対して「今まで随分ひどい目に遭わせてくれたな。」

内輪もめでゴタゴタしているポーランド。ユダヤ人にとっては第2の約束の地。「ここにおったら、地上の天国かいな」と思われるようなポーランド。実際ポーランドは、アシュケナジー系ユダヤ人のユダヤ教の中心地です。最も高名な中世のユダヤ教ラビがポーランドで続出しました。

しかしゴタゴタしていて、ロシアはポーランドを取ります。残った半分をプロシアとオーストリアが3度に分けて分割。結局、ポーランドは消滅しました。

これが問題でした。ロシアはポーランドの領土と富が欲しくて占領したけど、その中に、たくさんのユダヤ人がいたのです。ロシアはポーランドの土地は欲しいが、そこに住んでいるユダヤ人はいらぬ。しかし、ポーランドのユダヤ人は特に東側に多く住んでいて、ロシアは彼らを丸ごと引き受ける事になる。

同じ事が、プロシアでもオーストリアでも言えました。「ユダヤ人、出て行け！」と何度も追放したけど、領土を拡大する事によって、追放したのをもう1度抱え込むというジレンマに陥るのです。この時代は123年間続きますが、ユダヤ人たちは散々虐められ迫害されました。特にひどかったのは、多くのユダヤ人を抱え込んだロシアでの迫害です。

ロシアには1つ大きな問題がありました。それはコサックという人たちの存在。コサックダンスをする騎馬民族。彼らはロシアの地方領主の重税に耐えかねて、「こんなもん、言う通りに税金払って生きていけるか！」土地を放棄し、飼っていた馬を軍馬にし、野武士集団みたいになって、平和な村を襲って分捕って行く。『七人の侍』に出て来る悪い集団みたいな奴ら。片端から色んな町々・村々・農村を襲うのですが、非常に強くてロシア軍が負ける。馬の扱い方がはるかにウマイ。シャレちゃいますよ。

ロシアはポーランドを取ったがために、恐るべきドイツ連合と国境を接する事になりました。ロシアはドイツが怖い。ドイツもロシアが怖い。それで、一石二鳥でいい事を考えます。

ドイツが攻めて来ないように、国境を無法者集団コサックに守らせた。そこは、ユダヤ人が特区として押し込められている所です。ロシアは、コサック傭兵部隊をコントロールする役人をユダヤ人から選びました。「お前に権限与えるから、コサックが勝手な事せんように見張っとけよ。」

自分たちだって、コサックのコントロールなんてできないんですよ。なんで、ユダヤ人ができるんですか。しかも、コサックは軍事力持っている。当然コサックは、自分たちに色々言って来るユダヤ人に怒ります。

反目します。嫌われ者同士を抱き合わせにして、そして「俺たちは西から攻められる事はないわ」と思っているロシア。

この時、ロシアはユダヤ人を徴兵しました。一般のロシア人の徴兵は18歳から。ユダヤ人は12歳から。後に8歳からになります。8歳から18歳までの10年間、どうするかというと、ユダヤ教を捨てさせようとしたのです。兵役学校に入れて軍事訓練しながら、ロシア正教の信仰に変わるように、ユダヤ人のアイデンティティを捨てるように、ずっとやって行くのですが、殆どのユダヤ人は捨てませんでした。

ユダヤ人は18歳から兵役に就く。イスラエルでは男子は兵役3年・女子は2年。ロシアは今でも兵役25年ですよ。当時の平均寿命は50歳以下だから、死ぬまで兵隊。ロシアで生まれたユダヤ人は、ユダヤ教やユダヤ人としての生活は一切できず、使い捨ての兵隊になるように仕組まれていました。

ロシアに制圧された123年間に、ユダヤ人をコントロールするために作られた法律は600本。600本！実に苦しい。そのようにひどい目・苦しい目にずっと遭って来たのです。

こうして、ユダヤ人を祝福していたポーランドが、プロシア・オーストリアのドイツ帝国とロシア帝国の3つに滅ぼされてしまい、その後ユダヤ人は塗炭の苦しみを味わうのですが、それが突然終わります。

第一次世界大戦（1914-1918）。この戦争は“3国同盟”VS“3国協商”の戦い。同盟国の主軸はプロシア帝国とオーストリア帝国。対する連合国はイギリス・フランス・イタリア・アメリカ・日本。日本も入っている。日本が国際連盟の常任理事国に入っていた時代があったという事。この戦争は枢軸国側が負けたので、「お前ら負けたんやから、領土返せ！」それで、ポーランドの西半分は自然に戻りました。

問題はロシア。ロシアは連合国側。なのに返した。なんで？戦争中にロシア革命が起こったのです。帝国ロシアが滅びた。ボリシェビキ革命。

時のアメリカ大統領はウィルソン。民族自決主義。共産主義の革命が世界に輸出されるという事を、西側みんなが恐れました。共産主義の新しい国ソ連は、今のうちに虐めておくのに限る。「おい、ソ連！お前、連合国やったかも分からへんけど、国返せよ！」という事で、1日の取り決めで、1日でポーランドが生まれたのです。123年振りの独立。

ユダヤ人を123年間呪ってきたプロシア帝国・オーストリア帝国・ロシア帝国は全部滅びて、現在地図に載っていません。**創世記 12:3** **あなたを呪う者をのろう**。呪う者は呪われるのです。

ポーランドはこうして独立を果たすのですが、ここからがまた問題でした。第一次世界大戦の戦後処理を行うのに取り交わされた条約が、ベルサイユ宮殿でサインされたベルサイユ条約。この条約は敗戦国にとって、ものすごく非常に厳しく・きつく・辛い内容。特にドイツに対して。

「ドイツは植民地全部手放せ。」だからポーランドも手放した。「ドイツ人が多く住んでいる地域も周辺諸国に明け渡せ。」「ドイツは強い軍隊を持ったなら何をしでかすか分からない危ない国だから、国内治安をкаろうじて守れる程度にして、軍事力は全て取り上げる。軍事工場造ったらあかん。」

国の独立が危うくなるくらいまで追い詰められ、最終的に天文学的な賠償金要求。1320億金マルク。

どれくらいか私には分かりません。でも1つ分かる事は、この賠償金を払い終えたのは2010年10月3日かな。21世紀に入っても100年近く払い続けた。そうでないと払い切れない。余りにも莫大な額で、しかも分割がとてもひどかったので、ある時支払いが滞りました。

その時、フランスがドイツのルール地方という所に進駐します。ルール地方はドイツで最も盛んな重工業地帯。ドイツ随一の工業地帯にフランス軍が入って来たので、ここのドイツの全工場が操業停止。それでハイパーインフレ。4800%インフレ。これ、もうめちゃくちゃ。そこに1929年、世界大恐慌が襲いかかる。ドイツ人は「なんで、こんななったん?!」「我々は一体どうなってるん?」「なんで?」

第一次世界大戦でドイツが負けたと言いましたが、実はドイツの領土に他国の軍隊は入ってないんです。ドイツ軍を外国に送って戦った戦争に負けたが、ドイツ国内に外国軍は入って来ていない。だから、一般国民で戦場に立っていない人たちは負けたという実感が無い。「ちょっと、なんで負けたん?」「どうなったん?」「何が何だかわけが分からない内に、負けた事になってるんじゃないの?」

分からない、分からない…。すっかり自信を失って、途方に暮れているところに登場したのがヒトラー。ヒトラーは「ドイツ人がダメで間違っていて、戦争に負けたんじゃない。我々は真っ当な事をやっているのに、負けた事にされてしまった。それはユダヤの陰謀である。」

彼は元々働くのが嫌いな人。ブラブラしていたら、段々過激な思想になるんです。一般的に。彼は働こうと思ったら働けるだけの体力も気力もあるのに、個人恩給/生活保護の不正取得みたいな形で、ずっと働かない。「俺、美術家・芸術家になりたかってんけど。」美大落ちた。

やがてドイツ警察の諜報組織の末端に入り、新しく出て来た国粹主義の政党を見張りに行って、ミイラ取りがミイラになり、そこで反ユダヤ主義をビシッと信じ込んでしまうのです。「全ての悪は、ユダヤ人が操ってやっている。」

そして「もう1度アーリア民族の素晴らしい国を造るために、ユダヤ人を追放するべきだ!」そんな事を公約に掲げて、誰が投票するかと思うでしょ。33%得票。つまり、70%弱のドイツ人は「アイツが言ってる事、おかしいよね。」これでは政権取れません。

ですが、この時の与党が仲間割れしていた。現首相と前首相。前首相は現首相が大嫌い。生理的に大嫌い。このままでは現首相の意のままに動かされてしまうと思った前首相は、ヒトラーに「連立組めへんか?」それで連立でトップになった。歴史って、しょうもない私的な恨み事でバーンと動く事があるんですよ。

そして、ドイツでアーリア民族の優越性を保つという事で、ユダヤ人を皆追放して行きます。しかし領土を拡大するので、追い出されたユダヤ人がいる所が自分たちの領土になる。同じ事の繰り返し。結局ユダヤ人がいる限り、彼らと無関係になる事はできない。ジレンマ。それで、アウシュビッツ収容所を造っていくのです。

アウシュビッツ収容所のスライド[*画像の取り込みが不鮮明なので、動画を観てください。45分45秒頃~]

①ヴィスワ川に架かる橋；クラクフを流れる川を渡った所にユダヤ人たちのゲッターがありました。

②ゲッター内のシナゴグ；これは元々ラビの家だったのですが、ユダヤ人が家庭集会みたいに集まって、段々人数が増えてシナゴグになったと言われています。

③ユダヤ人墓地；そのシナゴグの隣に、ヨーロッパで 1 番古いユダヤ人墓地があります。それだけ昔から、ポーランドはユダヤ人にとって親しみやすく、居心地の良い場所であったという事です。

④墓石；このユダヤ人墓地をよく見て下さい。石はお墓参りに来た人が置いていきます。お墓の先端部が丸くなって弯曲していますが、これが伝統的なアシュケナジー系ユダヤ人のお墓の形です。

⑤ゲッソーの壁；これはクラクフのユダヤ人ゲッソーの壁です。この壁の形を見ると、お墓をかたどっている事が分かります。お墓はその人を土に埋めるという事。ゲッソーに入るという事は、ユダヤ人を生き埋めにするというのと同じ意味なんです。このように心理的にもプレッシャーをかけました。

⑥ 赤と青のポーランド地図；第一次世界大戦が終わり、ドイツがベルサイユ条約で非常なプレッシャーを受けて、逆切れというか、やがてドイツはヒトラーの指導の下、ベルサイユで約束した事を全部破って行きます。

軍備大増強、国中に高速道路を走らせ、自動車産業を保護し、失業率があつという間にゼロ近くになり、それまで 300 万人いた失業者がどこにもいない。経済的に大変潤って、ヒトラーは国民の支持を得、同時に SS という暴力組織を作りました。SS のトップがヒムラー。

SS が、後にアウシュビッツ収容所をコントロールする警備部隊になります。

第二次世界大戦が始まったのは 1939 年 9 月 1 日。終わるのは 1945 年 8 月 15 日。ポーランドで始まり、日本の終戦で終わる。1939 年 9 月 1 日、ドイツが西からポーランドにバサッと入りました。赤い部分は全部ドイツです。その 1 週間後、スターリンが侵攻してポーランドを取ってしまった。青い部分はソ連。ポーランドは再び国を失いました。

9 月 1 日の 1 週間前の 8 月 23 日、ヒトラーとスターリンは独ソ不可侵条約という秘密協定を結びました。「来月 9 月になったら、ドイツはポーランドに入る。残りのバルト 3 国はスターリン、お前にやるから、互いに戦争しないようにしよう。そしてドイツ・ソ連に対して、どこかが戦争しようとする時は、互いにその国の味方にはならない。」

ヒトラーとスターリンは地下で手を結んでポーランドを山分け。それを日本・世界が見てビックリ仰天。

ヒトラーはずっと言っていたのです。「ソ連共産主義はユダヤの巣窟であって、ユダヤ地下政府がやっている。ロシア革命はユダヤ人たちがやったんだ！ ユダヤの陰謀だ！ ユダヤ人はダメだ！」それがドイツ。一方ソ連は、ドイツに自分たちの人材を次々送り込んで、ドイツ共産党を作っていました。このドイツ共産党を残酷な手段で壊滅したのがヒトラー。

ドイツにとって共産ソ連は天敵。スターリンにとってヒトラーは天敵。なのに手を結んでいる。ポーランドはあつという間にやられてしまいました。世界って腹黒いわ。ほんまに。基本、この発想が変わっていないのが今の中国です。これは、またいつかお話ししようと思います。

⑦絞首刑；これはアウシュビッツの写真です。順番間違えました。

⑧クラクフのゲッソーの数と位置；クラクフの町の壁の中に、ユダヤ人が全員放り込まれました。壁の外に出る事はできない。でも、壁の中で終わるんじゃなくて、そこから収容所に移されて行きます。

⑨アウシュビッツ収容所；アウシュビッツは 3 つあります。

〈第1 収容所〉いわゆるアウシュビッツ；ここにはポーランドの政治犯が入れられました。この第1 収容所には12000人。入口には「ARBEIT MACHT FREI」（アーバイト・マッハト・フライ/労働は自由をもたらす）。ここを通過して入って行きました。

〈第2 収容所〉正式名称はビルケナウ；ユダヤ人・ロマと言われるジプシー・心身障害者・同性愛者、ナチスが見て生きるに値しないと思った人たちは、皆ここに入れられました。

〈第3 収容所〉労働のための収容所；イーゲー・ファルベンとか、今でもドイツで活躍している企業が軍事工場として建っていました。ここには殺戮のためではなく、労働のために押し込まれました。

⑩アウシュビッツの博物館；ここはポーランドの国立博物館になっていて入場無料。あんなひどい戦争が起こった理由を考える教育施設。と同時に、追悼の場所です。600万人のユダヤ人が殺された。しかし、お墓がない。灰は全部撒かれてしまった。だから、この場所敷地全体が追悼の場所。そこでお金を取る事はできない。ガイドさんにガイド料は払いますが、見学そのものは無料です。

⑪パノラマ；ここ（指している所）が第1 収容所です。

⑫ブロック4（棟）の入り口；アウシュビッツ収容所内に11か12のブロック/棟が建っていて、内部で何があったか詳しく書かれています。

「アウシュビッツ」はドイツ語で、ポーランド語では「オシフィエンチム」。ドイツ人はこれを発音できなかったの、言い易いようにアウシュビッツに変えました。単に発音し易いようにという事だけなので、アウシュビッツの名前には意味がありません。では、なぜこの場所に収容所を造ったのか？

⑬ブロック内の地図；これがアウシュビッツの場所です。ドイツはポーランドに入った後、軍隊を西に向け、ハンガリー・オランダ・ルクセンブルク・フランス、あつという間にヨーロッパ全土を数週間単位で落として行きました。フランスなんか数日で。

ドイツがヨーロッパの殆ど全てを自分の領域圏に置いた時、はからずもアウシュビッツが、そのど真ん中になったのです。それは、ナチスにとって都合の悪い人物を、占領したヨーロッパの中から収容所に放り込む時、真ん中にある所が都合がいいという事。ここに70の引込線があって、ヨーロッパ全土から囚人たちが送られて行くようになります。

⑭灰が入ったカプセル；先程の4というブロックに入って左手にあるのですが、これは灰です。ユダヤ人たちの燃やされた灰が、このカプセルの中にあります。ナチスは工場システムを利用して、効率的にユダヤ人を始末するために、恐るべき事をやって行きました。

⑮ガス室の模型；時々「ガス室なんかなかった」と言う人がいますが、そんな事ありません。ガス室の跡はあるのです。証拠隠滅のためにヒムラーが命令して爆破しました。

囚人はアウシュビッツ収容所に入ると最初に選別されます。労働に適する人は収容所の方へ、適さない人はガス室に送られる。妊婦・老人・子供たちはガス室。清潔にしなければならないという事で、この人たちはガス室の前に更衣室に行きますが、そこのハンガーにちゃんと番号が付いている。出て来た時に自分の囚人服を間違わないようにと、そんな芝居をして安心させて中に入れる。そしてチクロンB。殺虫剤。害虫を駆除する物を使って、人間を大量に殺戮して行きました。

死んだユダヤ人たちは、他のユダヤ人グループによって、髪を丸刈りにされ、金歯は抜かれて延べ棒にされました。ベルリンのナチス本部に色んな報告書が送られていますが、ユダヤ人を何人殺したという記録ではなく、金〇トンとか、そんな言い方です。人間じゃない。

選別で収容所に入った人たちは、最初に丸坊主にされ、原始的な器械で番号の刺青を入れられます。名前を奪われ、同じ囚人服を着せられる。丸坊主で同じ囚人服を着たら、他の人と見分けがつかない。たった 2-3 分で、人間の尊厳を完全に奪うシステムを作っていました。

⑯チクロンが入っていた缶；1つの缶で 200 人を殺したと言われています。

⑰眼鏡；80 kg くらいあります。⑱櫛・ブラシ ⑲靴；80 万足あります。⑳衣類 ㉑義手・義足 ㉒食器類

㉓靴；9000 個くらいあります。多くは外側に自分の住所や名前・出身地が書いてあります。

最低限の荷物しか持たずに貨車に詰め込まれて来るのですが、絶対お金に替えられない宝物のようなものが、この中に入っている。全部奪われた時、いつか誰かが見つけてくれたら、この住所に届けて欲しいという人間の魂の叫び。

㉔11 号棟と 12 号棟の間にある処刑の壁；突き当りの壁の前に、囚人たちが立たされて処刑されました。アウシュビッツの警備は SS が 6000 人。ピーク時は全部で 21 万人が収容されていました。

これを 6000 人でコントロールして、もし 21 万人が一致団結して反逆したらひとたまりもない。

そこで、それをしないように、彼らが震えあがるようなシステムをたくさん作りました。

その 1 つが見せしめです。銃殺で音が響くのですが、見る事はできない。音だけ響くようにしたのです。

㉕高圧電流フェンス①；どくろのマークがありますが、400 ボルトの高圧電流が流れていて、絶対逃げる事はできません。何らかの方法で逃げられたとしても、アウシュビッツ収容所の周囲は無入地帯。

ここは元ポーランド軍の兵舎と軍馬の調教場で、近くに村や町がなく人目につかない。色々な事があっても誰にも知られない。ヨーロッパの中心で、近くに炭鉱があってエネルギーを得る事ができる。

軍馬の調教場だったので、やたらと広い。だから、どんどん増設できました。

送り込まれて来た囚人たちは、グループ毎に印を付けられました。ユダヤ人は黄色の印。同性愛者はピンクの印。ポーランド人・ソ連人・聖職者の牧師や神父・キリスト伝道者・そしてエホバの証人も。

SS は囚人の中で上下関係・待遇を作りました。1 番下がユダヤ人。下に行けば行くほど労働時間が長くて、支給される食事が少ない。それによって、囚人の中に不公平感を持たせる。互いに助け合おうという気持ちではなく、互いに反目し合うようにやっている。人間の醜い心理を、どこをどうやったらどうなるか、というのを突き詰めている。

㉖21 号棟

㉗食事配給の絵；囚人が、囚人服を着ている人から食事をもらおうとしているところ。囚人を見張るのも囚人で、それをカポと言います。ユダヤ人がやらされたんです。仲間を裏切って。ドイツの犯罪者でカポになる人もいた。こうして、SS やナチスの将校たちが直接関わる事がないようにしました。

それは、自分たちのストレスを和らげるためだったと言われています。

㉘高圧電流フェンス②；先程の高圧電流が流れている所をもっと近くから。絶望して、自分でこれにもたれかかって自殺する囚人たちもいました。

②⑨洋館；今の高圧電線の所を右に向くとフェンスがあって、木の向こうに赤いお洒落な洋館が見えます。そこに住んでいたのがルドルフ・ヘス。アウシュビッツの所長。目と鼻の先に住んでいた。ここでペットのシェパードを飼って、花を作り、自分の子供たちもいる。

ユダヤ人の子供は、着いたらガス室に行きますよ。しかし、ジョセフ・メンゲルという SS の医者が、ユダヤ人の子供を使って人体実験をやっている、「実験のために、この子とあの子が欲しい」と言ったら、彼らは生き残ったのです。特に双子・三つ子の研究。人間を人間と思ってない。

ある時、ヘスの子供がフェンス越しにユダヤ人の子供を見ました。「僕も、あの青い格子縞の服が着たい。」この子には、どんなに恐ろしい事が起こっているか、この優しいお父さんがどんなに恐ろしい事に手を染めているか、全く想像できませんでした。ヘスは父親として、とても良い家庭人だったそうです。でも、自分の子供には愛情を注ぐけど、ユダヤ人の子供には全く別の見方をする。思想って怖いですよ。

③⑩絞首刑の台；結局ルドルフ・ヘスは死刑になるのですが、ニュールンベルグで処刑されたのではなく、アウシュビッツまで連れ戻され、収容所にあった絞首刑の台に首を吊るされて処刑されました。

③⑪第 2 収容所ビルケナウ；先程の所は強制労働収容所ですが、このビルケナウは虐殺のための収容所。これは死の門と言って、ここから鉄道線 70 に別れて行きます。貨車に入れられて、ここに入って来て選別される。

③⑫貨車；たくさんの人が詰め込まれ、移動中に命を落とす人も多かったと言われています。

③⑬絞首刑にされた人々

③⑭ガス室の跡①；ガス室全部を破壊し尽くそうとしてもできませんでした。爪の跡などが残っています。

③⑮ガス室の跡②；天井の上の所に穴が開いていて、そこから水が出て来ると信じていたけど、それはチクロン B でした。

③⑯焼却炉；完全に爆破できなかった部分を再現して作られました。以上です。[スライド終わり]

アウシュビッツに触れて来ましたが、非常に不思議な事があるんです。

1941 年、ヒトラーは領土を拡大していく中で、獲得した領土にいるユダヤ人の数が余りにも多いという事に慄然とします。初期の段階、ナチスには銃撃隊があって、200 万人のユダヤ人を殺しました。だけどまだ、その 3 倍のユダヤ人がいる。時間が足りないのではないかと？

それで 1942 年 1 月、もっと効率的にユダヤ人を抹殺するためにどうするか、バンゼー会議が開かれますが、その中に、ヒトラーはいないんです。

収容所での毒ガス殺戮はヒトラーのアイデアではなく、部下たちの自発的なアイデアで、それまでは強制収容所でしたが、バンゼー会議の後、絶滅収容所になりました。

ユダヤ人の労働力で何かを作るのではなく、ただユダヤ人抹殺目的に特化した場所になったのです。

さて 1942 年 6 月、イギリス BBC のニュースが遂にやりました。ユダヤ人大虐殺のニュースを世界中に配信したんです。実は、このアウシュビッツから、脱走に成功した人たちが 150 人くらいいるそうです。一体どうやって?! それは奇跡・奇跡の連続。そういう人たちの伝手を通して、「アウシュビッツで恐るべき大量虐殺/ホロコーストが行われている!」という事がイギリスの中でも耳に入って、大々的に配信されたのです。

1942年11月、連合軍が「この大虐殺に加担した者は、どんな事があっても罰する」と宣言。

1943年6月、ヒムラーは奴隷部隊を作り、大きな穴を掘ってユダヤ人をそこに入れ、焼いて、証拠隠滅を図ろうとします。1943年頃には「我々は戦争に負け始めている。このままでは勝ち目はない」という事が分かって来たから。

ヒトラーは最初、やる事なす事全部当たったのですが、途中から変な事をします。

彼は独ソ不可侵条約を結び、ポーランドを取り、西側に向かってヨーロッパ全土を支配した。

西側で、まだイギリスが残っている。背後にアメリカがいる。イギリス・アメリカとの戦争が残っている。

それなのにソ連と戦争し始めた。つまり、2正面で戦うという事。これは、歴史上の謎とされています。

どんな国でも、こっちと戦いながらあっちとも戦って、今アメリカと事を構えないといけない時に、ソ連も敵に回して、何でそんな事をするの？これは分かりません。

というか、特別な力が働いたとしか思えません。

普通なら、戦争に負け始めている事に気づき出したら、挽回して勝つために、国力を全部軍事力に入れて戦うのがまともな考え方。しかし、ナチスはそれをしなかった。もう時間がないと分かった時、国力をユダヤ人抹殺に振り向け、総力上げて、絶滅収容所でユダヤ人抹殺に走って行った。

これがナゾです。これは合理的ではありません。何か特別な力が働いているとしか思えないのです。

時間が来たので聖書に移ります。新約聖書ヨハネの黙示録12章。ここは、かつて起こった事ではなく、これから起こる将来の事が書いてあります。未来についての預言。それは何か？やがて人類は、恐るべき7年間の時代に入ります。この7年間を「患難時代」と呼ぶ人もいます。私もそうです。

7年間の前半の3年半だけで世界人口が半分に減り、後半の3年半には、ヒトラーとは比べものにならない恐るべき独裁者がヨーロッパから現れます。その人物が反キリスト。

その7年間に何が起こるかを、前もって語っているのが黙示録です。

聖書は旧約聖書が39巻・新約聖書は27巻/合計66巻。聖書の最後66番目が黙示録。

つまり、1巻から65巻までの内容を読者が分かっているという前提で、66番目に答えとして書かれているのがヨハネの黙示録。これから起こる事が書かれています。それは、今まで起こった事の繰り返しでもあるのです。ここにユダヤ人迫害の理由が書いてあるので、それを考えたいと思います。

ヨハネの黙示録12:1 また、大きなしるしが天に現れた。一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。

大きなしるしが天に現れたは黙示録に6回出て来ます。

一人の女。これだけ読んでいたら絶対に分かりません。先程言ったように、黙示録は読者が旧約聖書に精通しているという事が前提で、この描写は旧約聖書に既に1回出ているのです。

ユダヤ人の族長ヤコブの息子の1人にヨセフがいます。彼は夢を見る人で、神から夢で将来の事を預言されました。その解き明かしは、太陽はお父さんヤコブ。月はお母さんラケル。11の星はお兄さんたち。「この箇所が旧約聖書にあるのを読者は知っている」という前提で1節が書かれています。

この女は素晴らしいもので着飾っています。聖書で月・星・太陽は神の栄光を表しますが、やがてメシア

王国/千年王国になった時、ユダヤ人は神の栄光で彩られます。
女とはユダヤ民族の事。ユダヤ民族は神の栄光で着飾られている。

黙示録 12:2 女は身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

しまった! 私、さっきのアブラハム契約のところで、1つ説明するのを忘れてました。
それがないと、ここの説明がすごく難しいのですが、仕方ないので続けます。
子とはユダヤ民族から出て来るメシアの事。なぜそれが分かるかは 5 節。

黙示録 12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。

旧約聖書に「やがて来るメシアは、鉄の杖をもって世界を導く」と書いてあるのです。その預言を知っている人はここを読んで「この男の子は、神が人類に遣わす救い主メシアの事だ」と分かります。

その上で**黙示録 12:2** 女は身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

メシアがユダヤ民族から生まれる前、ユダヤ人は非常に苦しんでいました。イエス・キリストがユダヤ人に生まれたのはローマ時代。ユダヤ人にはヘロデという王がいましたが、彼はユダヤ人ではありません。ユダヤ人はローマの圧政の下で苦しんでいた。

「苦しんでメシアを産んでいる女はユダヤ民族/ユダヤ人」という事を覚えていて下さい。

黙示録 12:3 また、別のしるしが天に現れた。見よ、炎のように赤い大きな竜。それは、七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。

炎のように赤い大きな竜は、**黙示録 12:9** こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。

大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタン。

古い蛇は聖書で最初に登場する蛇。アダムとエバを誘惑した、悪魔に用いられた蛇です。

- ①蛇；人類を惑わして罪を犯させた者。人間に罪をもたらそうとして誘惑した者。
- ②悪魔；ギリシャ語でディアポロス/中傷する者。人の批判ばかりしている。
- ③サタン；敵対する者。

全世界を惑わす者の「惑わす」；正常な判断力を失わせて、人を不安や混乱に陥れて誘導する事。

人を惑わす時に使われるのは嘘です。悪魔は最初から嘘つきと書いてありますが、なぜユダヤ人が迫害されるのか？ 多くの場合、ユダヤ陰謀論という嘘を信じるからです。

少数民族という事だけならば単に迫害で終わるのですが、少数民族に対する恐れと「ユダヤ人は何か非常に悪い魂胆を持っていて、世界を支配しようとしている」という恐れがある。

『シオンの議定書』を知っていますか？ これはロシアの秘密警察が作って、『ロシアの軍旗』という新聞に連載され、全土に広まりました。ロシアは伝統的に反ユダヤ主義の国です。

共産革命が起こった時、赤軍のソ連をやっつけ、共産主義に追い出されたロシア人を助けるために、世界中がシベリアに軍隊を派遣しました。シベリア出兵。

共産主義軍に追い出されてシベリアにいたロシア兵は『シオンの議定書』を信じていて、「共産革命はユダヤ人がやったんだ! こんなものがある!」と、世界中から来た軍隊にそれを配ったのです。貰った兵たちは自国に持ち帰って翻訳しました。

日本もシベリアに出兵しています。そして、『シオンの議定書』を持ち帰り、すぐに翻訳しました。ところが日本の場合、「ユダヤ人怖い」ではなく「賢い!」。「ユダヤ人抑えなきゃ」ではなく「学べるよね。」反応がちょっと違う。

この本はアメリカにも飛んで、有名な自動車会社フォードの創業者が「これはすごい本だ。世界中に広めなければ!」。アメリカ版シオンの議定書『国際ユダヤ人』(インターナショナル・ジュー)をフォード財閥が出版し、宣伝したので50万冊売れました。アメリカ実業家の第一人者も『シオンの議定』書を信じているという事で「やっぱり、ユダヤ人が世界を支配しようとしている」と。

本の中身は「我々ユダヤ人は西洋文明を骨抜きにして転覆し、レジャー・セックス・スポーツで隷属化させ、何も考える事ができないようにして、全ての富をユダヤ人のものにするために、ありとあらゆる事を行う。」

だけど、これだけ世界に広まると、反骨精神豊かなジャーナリストの中に「ほんまか?」と徹底的に調べ上げる人が出て来る。そうして、イギリスの『タイムズ』が元のネタ本を見つけたんです。

ナポレオン三世の時代、彼の独裁的な政治を批判して「ナポレオン三世、あかんわ」と書いたら逮捕されるから、『マキャベリとモンテスキューの地獄での対話』という形で世界支配計画を語らせた。マキャベリがナポレオン三世の事です、そのまま書くと逮捕されるから、そこをユダヤ人にしたのが『シオンの議定書』。そっくりそのまま。素性割れてる。

それが明らかになった時、フォードは「これは偽書だった。間違っていた」と謝りました。しかし同時に「でもね。これは偽書だけど、言えてる部分も多いよね。」これは、私に言わせたら、ユダヤ人に対するヘイトスピーチです。未だにシオンの議定書を使う人がいるでしょ。こういうのを使ってるの、日本人として恥かしいですよ。恥です。だけど、これがぶり返される。その嘘を信じる。

なぜユダヤ人迫害が、燎原の火(りょうげんのひ)のように広がっていったのか?
惑わす力が働いているから。ものすごい力を持っている全世界を惑わす者、これが悪魔です。
ユダヤ人が迫害されるのは、悪魔がユダヤ人を滅ぼそうとしているからなのです。

黙示録 12:13 竜(サタン)は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女(ユダヤ民族)を追いかけた。

竜はユダヤ民族を滅ぼすために付きまとうストーカー。
ユダヤ民族が絶滅するまで追いかけて回す霊的存在、それが悪魔。反ユダヤ主義の元は悪魔的思想です。

黙示録 12:17-18 すると竜(サタン)は女(ユダヤ民族)に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たちと戦おうとして出て行った。そして、竜は海辺の砂の上に立った。

サタンは、ユダヤ人を滅ぼそうとして達成できないので激しく怒っている。

なぜサタン/悪魔はユダヤ人を滅ぼそうとするのか？

神の人類救済計画は、ユダヤ人を通して実行に移されるからです。その計画は、ユダヤ人を全滅させたら実現しない。そう考えて、それを妨害するために、ユダヤ人を狙い迫害しています。

しかし、こんなにひどい迫害を受けながらユダヤ人が滅び失せないのは、神の召しと選びは変わらないから。撤回されないからです。

アブラハム契約は何回か付加されるというか、契約条項がより詳しく・精密に・豊かに付け加えられていきます。創世記 22 章には、12 章で約束されたアブラハム契約がもっと詳しく語られています。

創世記 22:17 確かにわたしは、あなた（アブラハム）を大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。

創世記 22:18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。

ここで、子孫が 3 回出てきます。17 節で 2 回、18 節で 1 回。子孫はヘブライ語で「ゼラー」。

ゼラーはいつでも単数形。複数形がない名詞。

ゼラーには 2 通りの意味があります。

①集合名詞のゼラー：国民/民族

17 あなたの子孫を空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。

ここの子孫は明らかに民族の事。というのは、大いに増やす。増やすという事は集合名詞です。

アブラハムの子孫のユダヤ人は、誰も数える事ができないほどに大きな民になるという事です。

②普通名詞のゼラー：特定のひとり子

18 あなたの子孫によって

「あなたの子孫たち」ではなく「あなたの子孫」と普通名詞で使う場合、特定のある人物を指します。

アブラハムから出るユダヤ民族、そのユダヤ人から出て来る特定の人物こそが、全人類を救う救い主。

イエス・キリストはアブラハムの子孫としてお生まれになりました。

ユダヤ人は大変な迫害の中で生き延びて来ました。

だけど、「ユダヤ人は神によって守られたと言うけど、守るんだったら、そもそも迫害を受けないように

できなかったのか?」「どうしてユダヤ人は、そんなにひどい目に遭わなければならなかったのか?」

それも聖書に書いてあります。それは、神が遣わしたメシアをユダヤ人が拒んだからです。

これで終わりにします。話をしてて、構成がバラバラになったので私も困ってます。ごめんなさい。

レビ記 26 章。是非ご自分で、この章全部をお読み下さい。

ユダヤ人が神から離れて落ちぶれて行った時、神は悔い改めのチャンスを与えます。しかし、悔い改めない場合は 7 倍ひどい苦難を通る。それでも戻らない場合は、もう 7 倍ひどい苦難を受ける。それでもまだ立ち返らない場合は、更に 7 倍ひどい苦難を受ける。後になるほどひどい苦難。

ここに書かれている事は、ユダヤ民族の歴史に全部実現しました。

26 章を読んだら、その事にハッと気づくと思います。

